

ほしぞらダンス パラダイス



Special Interview

→ セレノグラフィカ

「この町でこそできた創作活動、公演」

子どもたちとの創作活動

阿「みんな、まっすぐに純度が高いというか。毎年違う子どもたちと接していても、その芯となる部分は共通しているな、という印象ですね。それから、舞台に立つということについて僕たちから特に何かを話すことはありませんが、子どもたちは自然にキュッと引き締まるんですね。最初はワーッと喜んでステージに上がるんですけど、次第に緊張感とか高揚感、観客に対する見せ方への意識が高まってきたな、というのが伝わります」。

隅「創作活動を通して、ただ何となく



立ったり歩いたりという動きひとつをとっても、子どもたちの身体の『強度』が高まっていくのを感じます。自分で動きを決めて身体で表現するという、小さな決断を重ねていく。最終的に舞台の上で表現することで、自分自身の深いところで何かを了解する。そしてその経験が、一瞬にして子どもたちを成長させているように感じます。ダンスが万能というわけではないかもしれませんが、ダンスにはそうした力を持っていると信じています」。

川根本町への思い

阿「初めて訪れたとき、曲がりくねった山道を抜けた先にこんなに豊かな町があるということ、そして道中の茶畑の美しさと香りに、衝撃を受けたことを思い出します。この町で、自分たちの創りたいものを皆さんと一緒に

【セレノグラフィカ】隅地菜歩さん(右上)と阿比留修一さん(左下)によるダンスユニット。国内外を問わず幅広いステージで活動。



創らせてもらったことは、とても贅沢なひとときでした」。

隅「この町にいて、普段は聞こえないことや見えないことにまで感覚が呼び覚まされるような気がします。町外からの一般公募者の中には毎年参加される方もいますが、それは私たちと同じようにこの町の持つ引力を感じているからだと思います。今では、この町に来ると『ああ、帰ってきたなあ』という思いすら感じるようになりました。私たちにとってこの町は、4年間、中身の濃い時間を過ごさせていただいた、本当に特別な場所です」。

3「雨と熊」
セレノグラフィカが町内に滞在しながら創作した新作ダンス。川根本町の空気感だからこそ完成したというこの作品は、朗読あり、衣装の早着替えありの川根本町スペシャル作品。観客は、二人が織り成す唯一無二の世界観に浸りました。

2「誰かが口ずさんでいる」
町内外から集まった一般公募者11人が、9月から練習を重ねた創作ダンスを披露。「血がながつていなくても家族のように生きる人たち」がテーマのダンスです。

1「マーチで弾もう!」
町内全小学4年生40人が3カ月にわたり練習を重ねてきました。女子児童は優雅に、男子児童はダイナミックにダンスを披露したほか、自分の名前を自身で創作した振付で表現する「ネームダンス」も一人ずつ発表。最後は全員で所狭しと元気に踊り、観客を笑顔にしました。

「ダンス」で地域活性化を

平成29年12月9日、文化会館で「ほしぞらダンスパラダイス」が開催されました。

